

## 訪問看護ステーションでのクラウドシステムの有効な活用法

尾崎祐一郎

株式会社プランタリス 代表取締役／訪問看護ステーション風 所長，理学療法士

### はじめに

訪問看護ステーション風（以下，当事業所）がある栃木県宇都宮市は，人口約 50 万人，東京から約 100 km, JR 東北新幹線で約 50 分の位置にあります。当事業所は，平成 24 年 4 月に宇都宮市南部に設立しました。開所したばかりでよちよち歩きの事業所ですが，経験豊富な看護職員を含む，正看護師（以下，Ns）3 名，准看護師 2 名，PT 1 名，ST 1 名の計 7 名（非常勤職員を含む）で，リハを主体として，24 時間対応の訪問看護と協働で，地域医療を展開しています。

開所したばかりの事業所のため，現在までの実績や事業展開の方法を紹介するほど多くの情報がありません。そこで，これから起業を考えている方に，少しでも役立つ情報を紹介できればと考え，訪問看護事業をどのようにして始め，今後の展望をどのように考えているのかを中心に紹介させていただきます。

### 訪問看護業務の問題

以前，勤務していた訪問看護ステーション（以下，事業所）で訪問リハを実施している中で，さまざまな問題が訪問看護の中に山積されていることを感じました。特に問題に感じたのが，事務効率の問題でした。

事業所の訪問看護師の人数は 7 名と，全国平均 41.9%<sup>1)</sup>の訪問看護職員数 3～5 名未満の事業所より若干大きい事業所でした。しかし，保険請求にかかわる事務処理の実施は，管理者が行っており（全国平均，55.0%<sup>2)</sup>），中規模の事業所においても管理者が訪問をしながら 1 人で事務処理の一部を実施し

ていかなくはいけない現状でした。管理者以外の Ns や准看護師は，日常の訪問を終わらせた後，事務所に戻りカルテを記入し，記入が終了すると次の日の準備と遅くまで残っていることをよく目にしました。家庭を持ち，義務教育就学児を持つ職員になると遅くまで残ることができず，カルテの記入がままならない状況も目にしました。このような状況を改善することができるシステムがないか常に思案していました。

### クラウドシステムとの出会い

全国訪問リハビリテーション振興会主催の管理者研修に参加し，講議を聞いた中に，現在使用しているクラウドシステム<sup>3)</sup>との出会いがありました。このシステムがあれば業務の改善が見込めるのではないかと直感し，事業所において現状のシステムからクラウドへのデータ移行や，事業所で使用中のソフトの減価償却の状態を調べました。しかし，現実的に変更は無理な状況でした。

このシステムがあれば，自分で訪問看護ステーションを運営できるのではないかという考えが頭に浮かびました。さらに，訪問の仕事をしたくてもできない状態にある，義務教育就学児を持つ Ns や PT などが働きやすい職場がつかれるのではと確信し，起業を考えました。

### 訪問看護ステーション風のクラウド使用方法

従来の職場環境では職員が集まらないため，義務教育就学児を持つ職員が働きやすい職場づくりを考えました。そこで，当事業所でクラウドシステムの能力を最大限に引き出すタブレットタイプ（写真 1）



写真1 使用しているタブレットタイプのスマートフォン (GALAXY Tab)



写真2 在宅での使用状況

のスマートフォン（以下、タブ）を使用することにしました。タブを使用することで、自宅から訪問先へ直接の訪問を可能にし、職員間の連絡もすべてタブを通して行うことで情報の共有を可能にすることができました。そのほか、カルテの記入も訪問先でタブに直接入力しています（写真2）。そのため、訪問先から直接自宅に帰宅しても、家事仕事の合間に未記入部分のカルテを記入することができ、義務教育就学児を持つ職員が働きやすい職場にすることが可能となりました。

詳細はクラウドシステムのホームページ<sup>3)</sup>に譲りますが、レセプト処理もカルテ作成と同時にでき、かなりの部分が簡素化できています。当事業所には事務員の配置はなく、10月現在、筆者は延べ70名/月の訪問をしながらレセプトの処理から事務業務を実施しています。それを可能にしているのはクラウドシステムだと思います。

## 今後の展望

地域包括ケア研究会の報告<sup>4)</sup>の中に、それぞれの地域が持つ「自助・互助・共助・公助」の役割分担を踏まえながら、有機的に連動して提供されるようなシステム構築が検討されなければならないとあります。人と人との交流ばかりではなく、地域の持つ役割をつなげていくには、クラウドシステムが重要なアイテムになると考えます。

さらに、病院での看取りから在宅での看取りを実

現するためには、看護職員など医療関係職種をはじめ必要な人材確保策を講じることが必要と考えます。そのためには、クラウドシステムを使い、訪問看護師が働きやすい職場づくりが重要だと考えます。

従来の訪問看護ステーションから、新たな方式での訪問看護ステーションの構築こそが、これからの地域を支える原動力となると考えます。

## 謝辞

当事業を開所するにあたり、実に多くの方にお世話になりました。ここですべての方のお名前を挙げることはできませんが、開所にご協力いただいた関係者の方に深く感謝申し上げます。

## 文献

- 1) 社団法人全国訪問看護事業協会：訪問看護ステーション経営概況緊急調査、平成20年3月  
<http://www.zenhokan.or.jp/pdf/surveillance/h19-6.pdf> (2012年11月10日アクセス)
- 2) 日本看護協会：平成20年度老人保健健康増進等事業「訪問看護事業所数の減少要因の分析及び対応策の在り方に関する調査研究事業」、2009  
<http://www.nurse.or.jp/home/zaitaku/hokokusho/pdf/20-gaiyo.pdf> (2012年11月10日アクセス)
- 3) いきいきメディケアサポート  
<http://www.ikiikimedicare.co.jp/> (2012年11月現在)
- 4) 地域包括ケア研究会：平成21年度老人保健健康増進事業による研究報告書、2010  
[http://www.kentei.go.jp/jp/singi/kinkyukoyou/suisinteam/TF/kaigo\\_dai1/siryous.pdf](http://www.kentei.go.jp/jp/singi/kinkyukoyou/suisinteam/TF/kaigo_dai1/siryous.pdf) (2012年11月10日アクセス)